

# タカラヅカファンの心理

—日本人ファンと海外ファンとの比較—<sup>(1)</sup>

薊 理津子\*

## 要 約

本研究では、宝塚歌劇団（通称タカラヅカ）のファン心理について、日本人ファンと海外ファンとを比較することを第1の目的とし、また、約25年前に上瀬（1994）が実施した、日本人を対象としたタカラヅカファンの心理に関する研究結果と、本研究の結果とを比較することを第2の目的とした。結果、タカラヅカの日本人ファンについては上瀬（1994）とほぼ同様の結果が得られ、日本人ファンがタカラヅカに抱いているイメージや求めているものは時代によって変化していなかった。一方、海外ファンは日本人ファンと同様に舞台の華やかさ、美しさ、男役のかっこよさに魅力を抱いているという共通点もあったが、タカラヅカ独特の世界感および文化を好んでおり、また、男役を理想の男性像と重ねているという相違点が示された。

キーワード：ファン心理、宝塚歌劇団、タカラヅカファン、国際比較

## 問題・目的

### 宝塚歌劇団について

宝塚歌劇団（通称、タカラヅカ）とは、兵庫県宝塚市を本拠地とし、阪急阪神東宝グループを構成する阪急阪神ホールディングスグループ中の事業の一つである。1913年に現・阪急阪神東宝グループの創業者である小林一三が宝塚唱歌隊を組織したことから始まり、1940年に現在の宝塚歌劇団へと改名し、2014年に100周年を迎えた。宝塚歌劇団は、宝塚市にある宝塚大劇場、東京宝塚劇場、宝塚大劇場に隣接する小規模な宝塚バウホールの3つの専用劇場を有しており、年間900回以上の公演を行っている（宝塚歌劇公式ホームページ、2018）。また、専用劇場で上演する他に、地方公演も行っている。2015年には、宝塚歌劇の1年間の観客動員数は過去最高の約273万人を記録し（産経新聞東京朝刊、2016）、2016

年には100周年から3年連続で270万人を超えている（産経新聞東京朝刊、2017）。

宝塚歌劇団は、宝塚音楽学校を卒業した未婚の女性のみで構成され、宝塚歌劇団と宝塚音楽学校は小林一三が残した教えである「清く正しく美しく」をモットーとしている。宝塚音楽学校を母体としていることから、劇団員は「生徒」（通称、タカラジェンヌ）と呼ばれる。宝塚歌劇団は、花・月・雪・星・宙の5組と専科に分かれており、各組に約80名が所属している。男性役も女性が演じることが宝塚歌劇団の大きな特徴であり、男性役を「男役」、女性役を「娘役」という。全ての作品は男役が中心で、各組にはトップスターである男役と、トップスターの相手役を務めるトップの娘役が一人ずつ存在し、この2人を中心に公演は展開される。

宝塚歌劇は芝居とショーの二本立てで行われる。宝塚歌劇団の装置と演出については、劇団のシンボルである舞台装置の大階段、スターの見せ場などで使用される銀橋、一列になって足をあげるとラインダンス、生徒が背負う羽根など、華やか

2018年11月30日受付

\* 江戸川大学 社会学部人間心理学科専任講師 社会心理学

が特徴である。代表作として「ベルサイユのバラ」「風と共に去りぬ」「エリザベート—愛と死の輪舞—」などがある。宝塚歌劇の公式ホームページでは、本物の男性より「かっこいい」男役、スターの演技だけでなく演出や舞台装置、専属のオーケストラによる生演奏といった全ての要素の融合によって夢のような空間を演出していることを宝塚歌劇の魅力として謳っている。

宝塚歌劇は国内だけでなく、海外でも公演されている。初の海外公演は、1938年のヨーロッパ公演であり、ドイツ、ポーランド、イタリアの26都市を巡演した。翌年の1939年にはアメリカでもホノルルとアメリカ本土9カ所で公演を行っている。以降もアジアや南米などで海外公演は行われ、2013年には初の台湾公演が上演されており、合計120都市以上で公演されている（遠藤、2016）。2013年の台湾公演はそれまでの海外公演とは異なる意味を持つ。藤沢（2013）によると、2013年の台湾公演までの海外公演は文化交流の一環で実施されていた。しかし、国内の観客動員数の成長に限界があることから、宝塚歌劇団は2013年の台湾公演によって、海外ビジネスモデルの構築を目指したのである。宝塚歌劇の公式ホームページでは新規顧客の開拓のために、2016年に英語サイトを大きくリニューアルし、中国版サイトを開設した（産経新聞東京朝刊、2016）。

### 宝塚歌劇団のファンクラブとタカラヅカファンの心理学的研究

宝塚歌劇団の歴史はファン（通称、ヅカファン）と歩んだ歴史といっても過言ではなく、「トップスターはファンが育てる」といわれている（都、2014）。以降では、宝塚歌劇団のファンをタカラヅカファンと表記し、ファンクラブと、ファンクラブの活動、及びタカラヅカファンの心理学的研究を紹介する。

宝塚歌劇団のファンクラブには公式ファンクラブである宝塚友の会と私設ファンクラブがある。前者の宝塚友の会は、特定の生徒を応援するものではなく、宝塚歌劇団全体を応援するファンクラブである。宝塚友の会の入会特典として、公式月

刊誌である「歌劇」「宝塚GRAPH」が送付されること、一般前売に先がけてチケットが先行販売されること、チケット・グッズが割引購入できること、宝塚大劇場レストランの優待などの各種施設の利用優待、会員限定イベントといったメリットがある。しかし、公式月刊誌は会員でなくても購入できるものであり、且つ、掲載されている内容は一般に公開されているものであること、チケット購入権はあるが、人気公演に当選する確率は低いことから、宝塚友の会はあまり意味をなさないという（宮本、2011）。後者の私設ファンクラブは生徒個人を応援するための劇団非公認のファンクラブであり、通称「会」という。都（2014）と宮本（2011）によると、会は後援会のようなもので、生徒名でのチケットの手配や弁当の手配などの生徒の世話をする。それ以外にも、楽屋の前で生徒を待ち（通称、入り出待ち）、生徒が楽屋を出入りする際のボディガード（通称、ガード）を務め、生徒を囲むファンのミーティング（通称、お茶会）の運営を無償で担う。さらに、会の代表は、生徒の送迎など、付き人兼マネージャーのような役割を務める<sup>2)</sup>。なお、ファンがこのような役割を担うにあたり、宝塚歌劇団が全く関与していないわけではない。生徒のファンがある一定数を超え、生徒が新人公演で目立つ活躍をする段階で、生徒やその周辺がファンクラブの必要性を認識すると、ファンクラブとして歌劇団に登録をする（宮本、2011）。会にはいくつか決まり事がある。例えば、生徒のロゴ入りウィンドブレーカーなど、公演ごとに制作・販売される会服を着用しなければ入り出待ちに参加できないこと、入り出待ちにおいて写真撮影など生徒との接触は禁止されていること、グッズの売り上げに貢献するためにグッズを買い揃えること、などである（都、2014）。以上より、会は統率された集団であり、また独特のルールを有する集団であることがうかがえる。なお、会のより詳細な活動・役割については宮本（2011）を参考にされたい。

さて、タカラヅカファンは宝塚歌劇のどのような部分に魅力を感じているのだろうか。上瀬（1994）は、ある男役の会を中心としてファンク

ラブに所属しているタカラヅカファンに、タカラヅカの好きなど、タカラヅカになくはないところ、男役のイメージ、娘役のイメージ、理想の男性像、普通の男性と比較したときの男役の印象について尋ね、複数の選択肢の中からあてはまるものを全て選ぶよう回答を求めるといった形式の調査を行なっている。結果、タカラヅカファンは舞台の華やかさ、美しさ、夢々しさ、男役のかっこよさにタカラヅカの魅力を感じていることが示された。そして、男役のかっこよさには外見の美しさが重要な要因となっており、ファンの理想の男性像が男役に投影されているものの、その理想像は現実の男性に求めるものとは異なっていることが示された。以上より、上瀬（1994）は、タカラヅカファンは、タカラヅカに現実には求めない外見および精神的面においての夢々しい美しさを求めていると結論づけている。なお、この調査では他に、はじめてタカラヅカを鑑賞した時期、タカラヅカファンになったきっかけについても尋ねている。はじめてタカラヅカを鑑賞した時期については、幼稚園、小学校と回答した人で全体の約半数を占めており、これに中学校と高校という回答を含めると、全体の80%になる。つまり、多くは青年期までにタカラヅカを鑑賞していることが示されている。タカラヅカファンになったきっかけについては、友人および母親につれられたことがきっかけで、タカラヅカファンになったと回答した人の割合が高く、身近な人間の影響によって、タカラヅカファンになったことが示された。

### 本研究の目的

宝塚歌劇団は日本における確固たる地位を築いており、観客動員数からもファンの数が多いことは明白であるが、国内では成長に限界があるため、海外に進出し、新規顧客の開拓を行っている。2013年に行われた台湾公演の観客動員数は約1万8千人であり、その内の8割は台湾の人々であったという（笹井・谷辺、2013）。また、毎日新聞大阪朝刊（2013）による台湾公演に関する記事では、宝塚歌劇団に関する約30枚のDVDを所有する台湾のファンのインタビューが掲載され

ている。では、海外のタカラヅカファン（以降、海外ファン）は宝塚歌劇のどのような部分に魅力を感じるのだろうか。上瀬（1994）<sup>(3)</sup>は、日本人のファン（以降、日本人ファン）を対象とした研究であったが、海外ファンにも上瀬（1994）と同様の結果が示されるのだろうか。

本研究では、海外ファンの心理について検討する。そして、海外ファンの心理を検討する上で、日本人ファンと比較することを第1の目的とする。これにあたり、上瀬（1994）で使用された質問および選択肢、回答形式を用いる。また、上瀬（1994）は1991年に実施した調査であり、それから約25年経過していることから、タカラヅカファンの心理に変化が生じている可能性がある。そのため、上瀬（1994）で使用された質問および選択肢、回答形式を用いて、本研究の結果と上瀬（1994）とを比較することを第2の目的とする。なお、ここでいう海外ファンとは、日本以外の国に国籍を有する者のことを指す。

### 予備調査

本調査では、上瀬（1994）で使用された質問および選択肢を利用するものの、上瀬（1994）は日本人ファンを対象にした研究であるため、海外ファンの心理を検討する上で、各質問に対する選択肢が不足している可能性がある。そのため、予備調査を実施し、本調査で用いる選択肢を追加することとした。

2017年4月中下旬に、タカラヅカファンのネットワーク<sup>(4)</sup>を利用した縁故法を用いて実施された。調査対象者は、海外ファン11名（全員女性、平均年齢29.36 ± 5.54歳）であり、出身の内訳は中華人民共和国10名、アメリカ合衆国1名であった。調査対象者に、Microsoft Wordで作成した質問紙の電子ファイルを添付した電子メールを送信し、電子ファイル内に回答を書き込むよう依頼した。回答を終えたら、そのファイルを添付した電子メールを調査者に送信するよう求め、回答を収集した。

上瀬（1994）を参考に、質問紙は次の内容で構

成された。①タカラヅカを知ったきっかけ、②タカラヅカファンになったきっかけ、③タカラヅカの好きなところ、④娘役のイメージ、⑤男役のイメージ、⑥理想の男性像、⑦普通の男性と比較したときの男役の印象、⑧タカラヅカになくてはならないところ、について自由記述で回答を求めた。収集された回答のうち、上瀬(1994)の選択肢に含まれていない回答を本調査に加えることとした。

## 本調査

### 方法

#### 調査対象者

タカラヅカファンの90名(平均年齢 $35.40 \pm 12.09$ 歳)を対象とした。内、日本人ファン49名(女性47名、男性2名、平均年齢 $40.09 \pm 14.46$ 歳、範囲17 - 57)、海外ファン41名(全員女性、平均年齢 $30.02 \pm 4.69$ 歳、範囲23 - 45)であった。海外ファンの出身の内訳は、中華人民共和国27名、中国香港5名、台湾8名、アメリカ合衆国1名であった。

なお、日本人ファン男性2名については、タカラヅカは女性ファンが多く、諸変数について性差が示される可能性があること、海外ファンが全員女性であること、また、先行研究(上瀬,1994)が全員女性を対象にしており、先行研究との比較を目的の一部としていることから、日本人ファン男性2名のデータは、分析から除外した。よって、日本人ファンは47名(平均年齢 $39.51 \pm 14.49$ 歳、範囲17 - 57)を分析対象とした。

#### 調査時期

2017年7月中旬から2017年9月下旬に実施された。

#### 調査内容

調査内容は上瀬(1994)を参考に作成され、以下の質問によって構成された。内、④と⑥~⑫は上瀬(1994)で使用された質問であった。

まず、①回答者の基本属性について、年齢、国籍、性別を尋ねた。そして、②ファンクラブの会

員か否か、③過去のファンクラブの入会経験の有無、④タカラヅカを初めて鑑賞した年齢<sup>5)</sup>、⑤タカラヅカを初めて鑑賞した媒体(複数の選択肢から単一回答形式、具体的選択肢についてはFigure 1を参照のこと)、⑥タカラヅカファンになったきっかけ、⑦タカラヅカの好きなところ、⑧娘役のイメージ、⑨男役のイメージ、⑩理想の男性像、⑪普通の男性と比較したときの男役の印象、⑫タカラヅカになくてはならないところ、を尋ねた(⑥から⑫は、複数の選択肢から複数回答形式、各質問の具体的な選択肢は、Figure 2~8およびTable 1~7を参照のこと)。⑥~⑫の選択肢は、上瀬(1994)で使用されたものを用いたが、一部修正および予備調査の結果を参考に追加した。具体的には、⑥の選択肢については、上瀬(1994)で用いられていた選択肢から海外ファンに適さないことが予想されるものを省き、予備調査の結果を参考に選択肢を設けた。⑦~⑫は上瀬(1994)で使用された選択肢を利用し、さらに予備調査で得られた回答を選択肢に加えた。

#### 手続き

本調査は、予備調査と同様にタカラヅカファンのネットワークを利用した縁故法を用いて実施された。日本人ファンには、google formを用いてweb調査を実施し、回答を収集した。インターネット環境によって、海外ファンにはgoogle formを使用できない場合があるため、予備調査と同様にMicrosoft Wordで作成した質問紙の電子ファイルを電子メールに添付して送信し、電子ファイル内に回答を書き込むよう依頼した。回答を終えたら、そのファイルを添付した電子メールを調査者に送信するよう依頼し、回答を収集した。なお、海外ファンの回答者は、調査に回答できる程度の日本語能力を有しているため、中国語など外国語に翻訳せず、日本人ファンと同様に日本語で調査を実施した。

#### 結果・考察

##### 1. 回答者の基本情報

ファンクラブに「入会している」と回答した人

は30名であり、内、日本人ファンは19名であり、海外ファンの会員が11名であった。「入会していない」と回答した人は58名であり、内、日本人ファンが28名、海外ファンが30名であった。日本人ファンか海外ファンであるかによる、ファンクラブへの入会状況の相違を検討するために、 $\chi^2$ 検定を行ったところ、有意な連関はみられなかった( $\chi^2(1) = 1.80, ns$ )。また、過去にファンクラブに「入会したことがある」と回答した人は47名であり、内、日本人ファンが28名、海外ファンが19名であった。「入会したことがない」と回答した人は41名で、内、日本人ファンが19名、海外ファンが22名であった。日本人ファンか海外ファンであるかによる、過去のファンクラブの入会経験の相違を検討するために、 $\chi^2$ 検定を行ったところ、有意な連関はみられなかった( $\chi^2(1) = 1.54, ns$ )。つまり、日本人ファンであるか、海外ファンであるかによって、現在のファンクラブへの入会状況および過去のファンクラブへの入会経験に相違は示されなかった。

## 2. タカラヅカを初めて鑑賞した年齢・媒体・好きになったきっかけ

タカラヅカを初めて鑑賞した平均年齢は20.74 ± 9.68歳であった。内、日本人ファンの平均年齢は18.61 ± 12.21歳(中央値15, 範囲2 - 48)、海外ファンの平均年齢は23.12 ± 4.78歳(中央値23, 範囲13 - 42)であった。日本人ファンと海

外ファンによって、タカラヅカを初めて鑑賞した年齢に差があるかどうかを検討するために独立した $t$ 検定を行ったところ、有意な差が認められた( $t(59.80) = -2.32, p < .05$ )。日本人ファンの方が海外ファンよりも、タカラヅカを初めて鑑賞した年齢は有意に低かった。上瀬(1994)では、高校生までにタカラヅカを鑑賞した回答者が大多数を占めていた。本研究においても、日本人ファンのタカラヅカを初めて鑑賞した平均年齢が約18歳、中央値15歳であったという結果は、上瀬(1994)と概ね一致し、多くの日本人ファンは青年期までにタカラヅカを鑑賞していることが示された。

タカラヅカを初めて鑑賞した媒体については、日本人ファンは生舞台が約60%と最も多かった。海外ファンは、DVDが約40%と最も多く、次にインターネットが多かった(Figure 1)。上瀬(1994)は若い時期にタカラヅカの観劇経験がある人は、親と共に観劇に行っていると考察している。本研究では、初めてタカラヅカを鑑賞した媒体として、生舞台と回答した日本人ファンが多いこと、また、多くの日本人ファンは青年期までにタカラヅカを初鑑賞しているという結果から、上瀬(1994)が示唆したように、多くの日本人ファンは、若い年齢時に親とともに生舞台を鑑賞していることが推察される。一方、海外ファンは日本人ファンと異なり、生舞台をすぐに鑑賞できる環境にないため、DVDやインターネットで初め

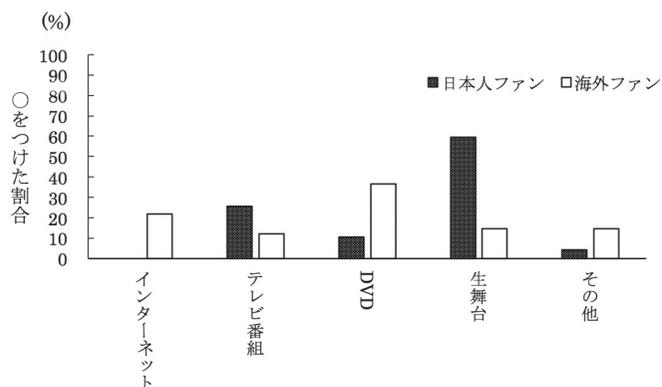


Figure 1 タカラヅカを初めて鑑賞した媒体についての日本人ファンと海外ファンの比較

てタカラヅカを鑑賞することになるのだと考えられる。

Figure 2に、タカラヅカファンになったきっかけについて、日本人ファンと海外ファンそれぞれが各選択肢を選択した割合を示す。日本人ファンと海外ファンともに「生徒がかっこいいから」が最も多く、約80%が選択し、次に、「作品の演出が素晴らしかったから」を挙げていた。

タカラヅカファンになったきっかけについて、日本人ファンと海外ファンとで回答を比較するために、 $\chi^2$ 検定を行った (Table 1)。結果、「タカラヅカファン文化に興味があったから」( $\chi^2(1)=6.34, p<.05$ )、「友人のおすすめ」( $\chi^2(1)=5.40, p<.05$ )、「家族のおすすめ」( $p<.05$ )、「観ているドラマに元タカラヅカ出身の女優さんが出ていた

から」( $\chi^2(1)=10.20, p<.01$ )について有意な偏りが見られた。

以上より、日本人ファンと海外ファンで、タカラヅカファンになったきっかけの違いは、日本人ファンは友人や家族からすすめられたことがきっかけでタカラヅカファンになった人が多かった。上瀬 (1994) は、友人や母につれられたことをきっかけとしてファンになる人が多いことを示しており、本研究の結果はこれと一致した。一方、海外ファンはタカラヅカファン文化に興味があったこと、観ているドラマに元タカラヅカ出身の女優が出ていたことがきっかけで、タカラヅカファンになった人が多かった。海外ファンは身近な人間からの影響ではなく、タカラヅカファンに特有の文化への関心、観ているドラマをきっかけとし

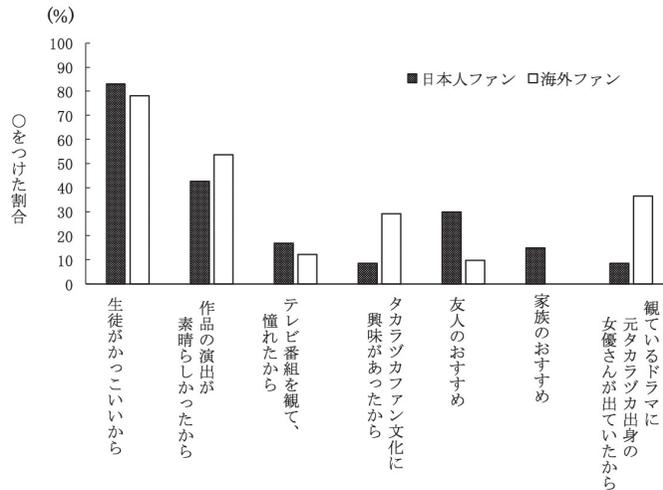


Figure 2 タカラヅカファンになったきっかけについての日本人ファンと海外ファンの比較

Table 1 タカラヅカファンになったきっかけについての $\chi^2$ 検定の結果

	$\chi^2$ 値
生徒がかっこいいから	0.34
作品の演出が素晴らしかったから※	1.08
テレビ番組を観て、憧れたから	0.41
タカラヅカファン文化に興味があったから	6.34*
友人のおすすめ	5.40*
家族のおすすめ	*
観ているドラマに元タカラヅカ出身の女優さんが出ていたから※	10.20**

\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ , \*\*\* $p<.001$

注1)  $\chi^2$  値が記載されていない箇所は期待度数が5以下であったため、Fisherの正確確率検定を行った。

注2) ※は予備調査の結果に基づき、本調査で新たに作成した選択肢である。

注3) 自由度は全て1である。

て、ファンになることが示された。

### 3. 娘役のイメージ

Figure 3に、娘役のイメージについて、日本人ファンと海外ファンそれぞれが各選択肢を選択した割合を示す。日本人ファンと海外ファンともに、「美しい」を約60%、「かわいい」を約50～60%があげていた。日本人ファンと海外ファンはともに娘役に対して女性らしいイメージを有しているということが示され、上瀬（1994）と一致する結果が得られた。しかし、日本人ファンと

海外ファンとで回答に多くの相違もみられた。日本人ファンは、「華やか」「可憐である」「愛らしい」を約70～80%があげていた。一方、海外ファンは「美しい」「かわいい」以外では、全体的に各選択肢を選択した割合が低かった。

次に、日本人ファンと海外ファンとで回答を比較するために、 $\chi^2$ 検定を行った（Table 2）。「可憐である」（ $\chi^2(1)=33.51, p<.001$ ）、「愛らしい」（ $\chi^2(1)=16.21, p<.001$ ）、「華やか」（ $\chi^2(1)=16.08, p<.001$ ）、「品がよい」（ $\chi^2(1)=12.05, p<.001$ ）、「現実的でない」（ $\chi^2(1)=5.00,$

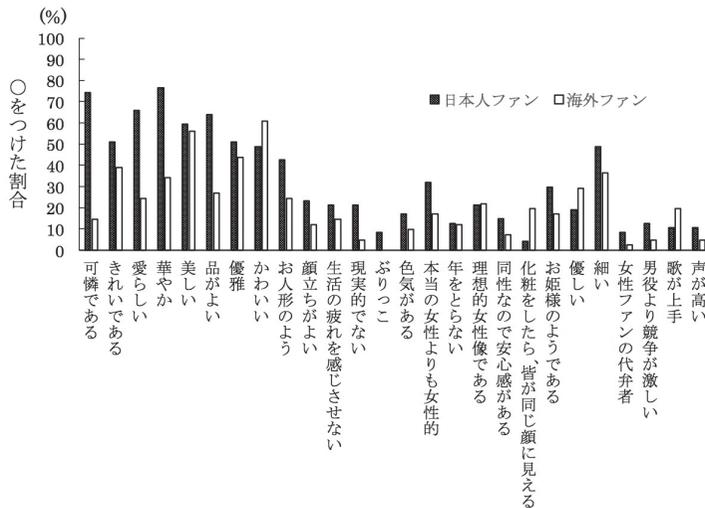


Figure 3 娘役のイメージについて、日本人ファンと海外ファンの比較

Table 2 娘役のイメージについての $\chi^2$ 検定の結果

	$\chi^2$ 値		$\chi^2$ 値
可憐である	33.51***	色気がある	0.98
きれいだる	1.28	本当の女性よりも女性的	2.57
愛らしい	16.21***	年をとらない	0.01
華やか	16.08***	理想的な女性像である	0.01
美しい	0.11	同性なので安心感がある	
品がよい	12.05***	化粧をしたら、皆が同じ顔に見える※	*
優雅	0.45	お姫様のような※	1.95
かわいい	1.28	優しい※	1.23
お人形のように	3.22†	細い※	1.36
顔立ちがよい	1.85	女性ファンの代弁者※	
生活の疲れを感じさせない	0.65	男役より競争が激しい※	
現実的でない	5.00*	歌が上手※	1.37
ぶりっこ		声が高い※	

†  $p<.10$ , \* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ , \*\*\* $p<.001$

注1)  $\chi^2$  値が記載されていない箇所は期待度数が5以下であったため、Fisherの正確確率検定を行った。

注2) ※は予備調査の結果に基づき、本調査で新たに作成した選択肢である。

注3) 自由度は全て1である。

$p < .05$ ), 「化粧をしたら、皆が同じ顔に見える」 ( $p < .05$ ) に有意な偏りが見られた。また, 「お人形のよう」に有意な偏りが示される傾向が見られた ( $\chi^2(1) = 3.22, p < .10$ )。

以上より, 日本人ファンは, 可憐, 愛らしい, 華やか, 品がよい, 現実的でない, お人形のようであるというイメージを娘役に対して抱く人が多かった。つまり, 日本人ファンは娘役に対して, 非現実的なほどに女性らしいイメージを有していることが示唆された。一方, 海外ファンは化粧をしたら, 皆が同じ顔に見えるというイメージを娘役に対して抱く人が多かった。海外ファンは, 娘

役に対して女性らしいイメージを有しているという点で日本人ファンと同様ではあるが, 日本人ファンほどそのイメージを強く持っているというわけではないのかもしれない。

4. 男役についてのイメージ・普通の男性と比較したときの男役的印象・理想の男性像

まず, 男役についてのイメージに関して, 日本人ファンと海外ファンそれぞれが各選択肢を選択した割合を Figure 4 に示す。日本人ファンと海外ファンともに, 「かっこいい」が90%以上と最も多く, 「美しい」「足が長い」「華やか」の回答

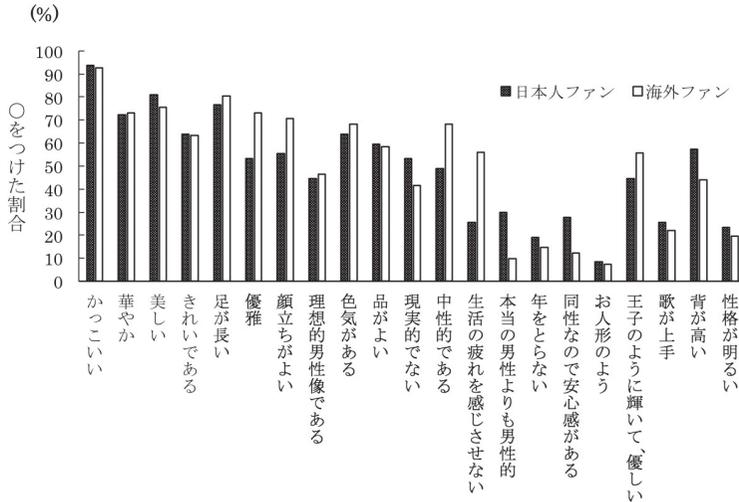


Figure 4 男役のイメージについて, 日本人ファンと海外ファンの比較

Table 3 男役のイメージについての  $\chi^2$  検定の結果

	$\chi^2$ 値		$\chi^2$ 値
かっこいい		中性的である	4.12 <sup>†</sup>
華やか	0.01	生活の疲れを感じさせない	8.54**
美しい	0.36	本当の男性よりも男性的	5.40*
きれいである	0.02	年をとらない	0.32
足が長い	0.20	同性なので安心感がある	3.22 <sup>†</sup>
優雅	3.73 <sup>†</sup>	お人形のよう	
顔立ちがよい	2.22	王子のように輝いて、優しい※	1.14
理想的男性像である	0.02	歌が上手※	0.16
色気がある	0.19	背が高い	1.61
品がよい	0.01	性格が明るい※	0.20
現実的でない	1.21		

<sup>†</sup>  $p < .10$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

注 1)  $\chi^2$  値が記載されていない箇所は期待度数が5以下であったため, Fisherの正確確率検定を行った。

注 2) ※は予備調査の結果に基づき, 本調査で新たに作成した選択肢である。

注 3) 自由度は全て1である。

が70%以上と多かった。上瀬(1994)でも、男役のイメージは「かっこいい」が最も多く、「華やか」「美しい」「足が長い」が多くあげられており、外見の美しさがかっこよさの要因になっていると示唆されている。本研究においても上瀬(1994)と同様の結果が得られ、男役の外見の美しさが、かっこよさの要因になっていることは日本人ファンだけでなく、海外ファンにおいても同様であることが示された。また、海外ファンは「優雅」「顔立ちがよい」「色気がある」「中性的である」も約70%があげていた。

次に、日本人ファンと海外ファンとで回答を比較するために、 $\chi^2$ 検定を行った(Table 3)。「生活の疲れを感じさせない」( $\chi^2(1)=8.54, p<.01$ )、「本当の男性よりも男性的」( $\chi^2(1)=5.40, p<.05$ )に有意な偏りが見られた。また、「優雅」( $\chi^2(1)=3.73, p<.10$ )、「中性的である」( $\chi^2$

(1)=4.12,  $p<.10$ )、「同性なので安心感がある」( $\chi^2(1)=3.22, p<.10$ )に有意な偏りが示される傾向が見られた。

以上より、日本人ファンは海外ファンと比べて、本当の男性よりも男性的で、同性なので安心感があるというイメージを男役に対して抱く人が多く、一方、海外ファンは日本人ファンと比べて、生活の疲れを感じさせない、優雅、中性的であるというイメージを抱く人が多かった。つまり、男役に対する男性性という点で、日本人ファンと海外ファンでは抱くイメージは対照的である。日本人ファンにとって男役は男性らしい存在であるが、海外ファンは男らしさを感じさせない存在として捉えている。

次に、普通の男性と比較したときの男役の印象について、日本人ファンと海外ファンそれぞれが各選択肢を選択した割合を Figure 5 に示す。日

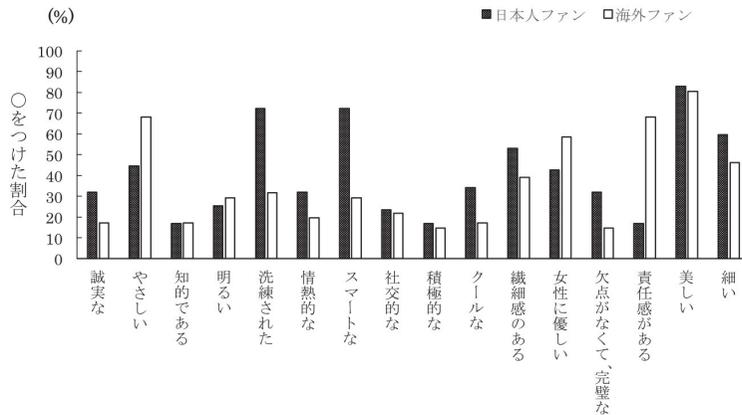


Figure 5 普通の男性と比較したときの男役の印象について、日本人ファンと海外ファンの比較

Table 4 普通の男性と比較したときの男役の印象についての $\chi^2$ 検定の結果

	$\chi^2$ 値		$\chi^2$ 値
誠実な	2.57	積極的な	0.09
やさしい	4.95*	クールな	3.27 <sup>†</sup>
知的である	0.00	繊細感のある※	1.77
明るい	0.15	女性に優しい※	2.24
洗練された	14.53***	欠点がなく、完璧な※	3.60 <sup>†</sup>
情熱的な	1.75	責任感がある※	23.81***
スマートな	16.28***	美しい※	0.09
社交的な	0.03	細い※	1.54

<sup>†</sup>  $p<.10$ , \* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ , \*\*\* $p<.001$

注1)  $\chi^2$  値が記載されていない箇所は期待度数が5以下であったため、Fisherの正確確率検定を行った。

注2) ※は予備調査の結果に基づき、本調査で新たに作成した選択肢である。

注3) 自由度は全て1である。

本人ファンと海外ファンともに約80%が「美しい」をあげていた。日本人ファンは「洗練された」「スマートな」を約70%があげており、この2つは上瀬(1994)においても選択率が高く、この結果についても上瀬(1994)と一致した。一方、海外ファンは「やさしい」「責任感がある」を約70%、「女性に優しい」を約60%があげていた。

次に、日本人ファンと海外ファンとで回答を比較するために、 $\chi^2$ 検定を行った(Table 4)。「やさしい」( $\chi^2(1)=4.95, p<.05$ )、「洗練された」( $\chi^2(1)=14.53, p<.001$ )、「スマートな」( $\chi^2(1)=16.28, p<.001$ )、「責任感がある」( $\chi^2(1)=23.81, p<.001$ )に有意な偏りが示された。また、「クールな」( $\chi^2(1)=3.27, p<.10$ )、「欠点がなく、完璧な」( $\chi^2(1)=3.60, p<.10$ )に有意な偏りが示さ

れる傾向が見られた。

普通の男性と男役を比較したとき、日本人ファンは、洗練されていて、スマート、クール、欠点がなく完璧という印象を抱き、海外ファンは、やさしい、責任感があるという印象を抱いている。この結果については、以降の理想の男性像についての結果と併せて考察する。

理想の男性像について、日本人ファンと海外ファンそれぞれが各選択肢を選択した割合をFigure 6に示す。日本人ファンは、約70%~80%の人が「やさしい」「誠実な」をあげており、上瀬(1994)と同様であった。一方、海外ファンは約90%が「責任感がある」、約80%が「女性に優しい」をあげた。

次に、日本人ファンと海外ファンとで回答を比

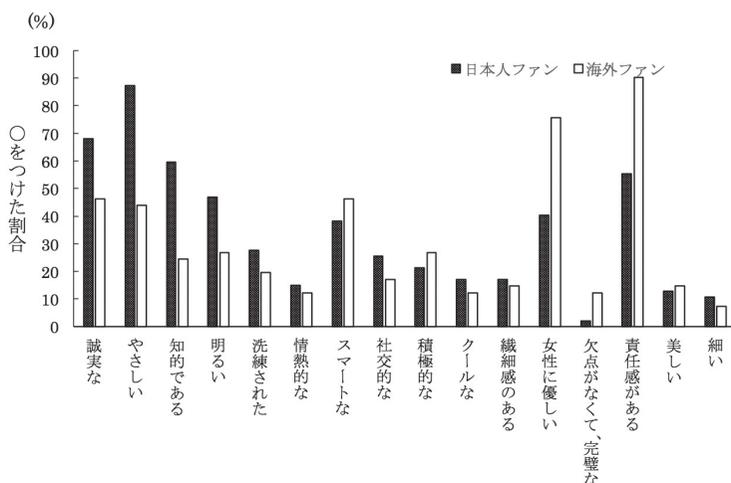


Figure 6 理想の男性像について、日本人ファンと海外ファンの比較

Table 5 理想の男性像についての $\chi^2$ 検定の結果

	$\chi^2$ 値		$\chi^2$ 値
誠実な	4.25*	積極的な	0.37
やさしい	18.61***	クールな	0.41
知的である	11.05***	繊細感のある※	0.09
明るい	3.73†	女性に優しい※	11.05***
洗練された	0.80	欠点がなく、完璧な※	†
情熱的な	0.14	責任感がある※	13.13***
スマートな	0.58	美しい※	0.07
社交的な	0.93	細かい※	1.54

†  $p<.10$ , \* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ , \*\*\* $p<.001$

注1)  $\chi^2$  値が記載されていない箇所は期待度数が5以下であったため、Fisherの正確確率検定を行った。

注2) ※は予備調査の結果に基づき、本調査で新たに作成した選択肢である。

注3) 自由度は全て1である。

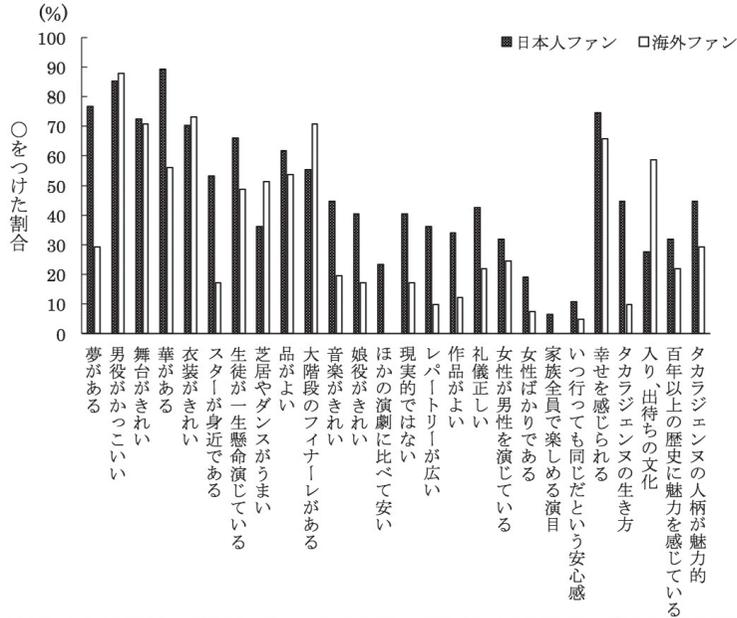


Figure 7 タカラヅカの好きなおところについて、日本人ファンと海外ファンの比較

Table 6 タカラヅカの好きなおところについての $\chi^2$ 検定の結果

	$\chi^2$ 値		$\chi^2$ 値
夢がある	19.78***	現実的ではない	5.74*
男役がかっこいい	0.14	レパートリーが広い	8.41**
舞台がきれい	0.03	作品がよい	5.75*
華がある	12.55***	礼儀正しい	4.21*
衣装がきれい	0.09	女性が男性を演じている	0.61
スターが身近である	12.35***	女性ばかりである	2.60
生徒が一生懸命演じている	2.65	家族全員で楽しめる演目	
芝居やダンスがうまい	2.02	いつ行っても同じだという安心感	
品がよい	0.58	幸せを感じられる※	0.78
大階段のフィナーレがある	2.22	タカラジェンヌの生き方※	13.13***
音楽がきれい	6.28*	入り、出待ちの文化※	8.57**
娘役がきれい	5.74*	百年以上の歴史に魅力を感じている※	1.10
ほかの演劇に比べて安い	***	タカラジェンヌの人柄が魅力的※	2.22

\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ , \*\*\* $p<.001$

注1)  $\chi^2$  値が記載されていない箇所は期待度数が5以下であったため、Fisherの正確確率検定を行った。

注2) ※は予備調査の結果に基づき、本調査で新たに作成した選択肢である。

注3) 自由度は全て1である。

較するために、 $\chi^2$  検定を行った (Table 5)。「誠実な」( $\chi^2(1)=4.25, p<.05$ )、「やさしい」( $\chi^2(1)=18.61, p<.001$ )、「知的である」( $\chi^2(1)=11.05, p<.01$ )、「女性に優しい」( $\chi^2(1)=11.05, p<.001$ )、「責任感がある」( $\chi^2(1)=13.13, p<.001$ )に有意な偏りが示された。また、「明るい」( $\chi^2(1)=3.73, p<.10$ )、「欠点がなく、完璧な」

( $p<.10$ )に有意な偏りが示される傾向が見られた。

日本人ファンは誠実で、優しい、知的、明るい男性を理想としており、海外ファンは女性に優しく、責任感があり、欠点がなく完璧な男性を理想としていた。普通の男性と男役を比較した結果と合わせて考えると、日本人ファンは、男役を普通の男性と比較したときの印象と理想の男性像の

回答が一致しなかった。この結果は上瀬 (1994) と一致しており、ファンは現実の男性に求めるものと男役に求めるものが異なると指摘されている。しかし、海外ファンは、男役は普通の男性よりも優しく、責任感があるという印象を抱いており、理想の男性像と一致している。つまり、海外ファンは理想の男性像と男役を重ねているといえるだろう。

5. タカラヅカの好きなおとこ・なくてはならないところ

タカラヅカの好きなおとこについて、Figure 7 に日本人ファンと海外ファンそれぞれが各選択肢を選択した割合を示す。日本人ファンと海外ファンともに、「男役がかっこいい」「舞台がきれい」「幸せを感じられる」を多くあげていた。上瀬 (1994) は舞台の華やかさ、美しさ、男役のかっこよさがタカラヅカの魅力であることを示しており、日本人ファンと海外ファンともに、この点については同様であったといえる。また、日本人ファンについては「華がある」が約 90%、「夢がある」が約 80% と多く回答されており、上瀬 (1994) と類似した結果が得られた。海外ファンは、「大階段のフィナーレがある」を約 70%、「入り、出待ちの文化」を約 60% があげていた。

次に、日本人ファンと海外ファンとで回答の人

数比率を比較するために、 $\chi^2$  検定を行った (Table 6)。結果、「夢がある」( $\chi^2(1)=19.78, p<.001$ ), 「華がある」( $\chi^2(1)=12.55, p<.001$ ), 「スターが身近である」( $\chi^2(1)=12.35, p<.001$ ), 「音楽がきれい」( $\chi^2(1)=6.28, p<.05$ ), 「娘役がきれい」( $\chi^2(1)=5.74, p<.05$ ), 「ほかの演劇に比べて安い」( $p<.001$ ), 「現実的ではない」( $\chi^2(1)=5.74, p<.05$ ), 「レパートリーが広い」( $\chi^2(1)=8.41, p<.01$ ), 「作品がよい」( $\chi^2(1)=5.75, p<.05$ ), 「礼儀正しい」( $\chi^2(1)=4.21, p<.05$ ), 「タカラジェンヌの生き方」( $\chi^2(1)=13.13, p<.001$ ), 「入り、出待ちの文化」( $\chi^2(1)=8.57, p<.01$ ) について有意な偏りが見られた。

以上より、日本人ファンと海外ファンで、タカラヅカの好きなおとこについての相違点を述べる。日本人ファンは、タカラヅカの好きなおとことして、夢、華、スターの身近さ、きれいな音楽と娘役、ほかの演劇に比べての安さ、現実的ではないこと、レパートリーの広さ、作品、礼儀正しさ、タカラジェンヌの生き方を挙げる人が多かった。一方、海外ファンは、入り、出待ちの文化を好きなおとことして挙げた人が多かった。日本人ファンはタカラヅカの夢のある非現実的世界感に魅力を感じるだけでなく、タカラジェンヌ自身と作品などタカラヅカの全般に魅力を感じる人が多い。一方、海外ファンはタカラヅカ特有の文化に

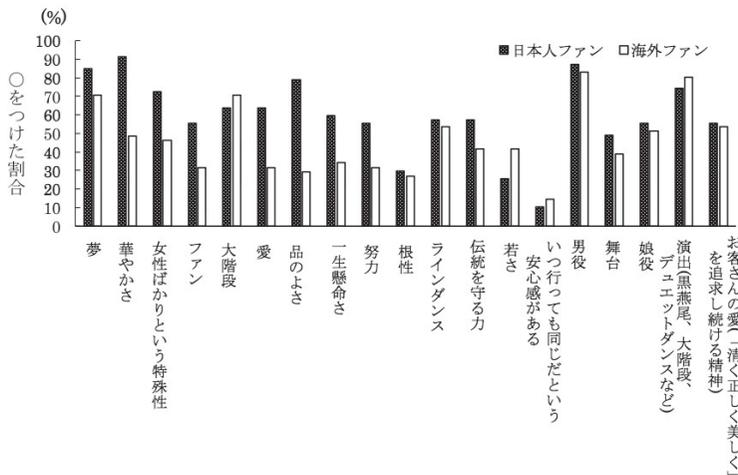


Figure 8 タカラヅカになくてはならないところについて、日本人ファンと海外ファンの比較

Table 7 タカラヅカになくなくてはならないところについての  $\chi^2$  検定の結果

	$\chi^2$ 値		$\chi^2$ 値
夢	2.67	ラインダンス	0.13
華やかさ	19.64***	伝統を守る力	2.24
女性ばかりという特殊性	6.18*	若さ	2.52
ファン	4.95*	いつ行っても同じだという安心感がある	0.32
大階段	0.47	男役※	0.32
愛	9.04*	舞台※	0.87
品のよさ	21.70***	娘役※	0.15
一生懸命さ	5.68*	演出 (黒燕尾, 大階段, デュエットダンスなど) ※	0.45
努力	4.95*	お客さんの愛 (「清く正しく美しく」を追求し続ける精神) ※	0.02
根性	0.09		

\* $p<.05$ , \*\* $p<.01$ , \*\*\* $p<.001$

注1)  $\chi^2$  値が記載されていない箇所は期待度数が5以下であったため、Fisherの正確確率検定を行った。

注2) ※は予備調査の結果に基づき、本調査で新たに作成した選択肢である。

注3) 自由度は全て1である。

魅力を感じている人が多いといえる。先述したように、海外ファンは、タカラヅカファン特有の文化に関心があったことがきっかけでファンになったという人が多かった。ゆえに、海外ファンは好きなどころについても、タカラヅカに特有の文化をあげるのだと考えられる。

タカラヅカになくなくてはならないところについて、Figure 8に日本人ファンと海外ファンそれぞれが各選択肢を選じた割合を示す。日本人ファンと海外ファンともに、「男役」「演出(黒燕尾, 大階段, デュエットダンスなど)」を約70~90%があげており、「大階段」「ラインダンス」「お客さんの愛(「清く正しく美しく」を追求し続ける精神)」も半数を超えていた。他に、日本人ファンは、約90%の人が「華やかさ」「夢」を選択しており、上瀬(1994)においても「夢」「華やかさ」が上位にあげられていた。海外ファンも「夢」を上位にあげてはいるものの、日本人に比べれば人数は少なかった。

次に、日本人ファンと海外ファンとで回答を比較するために、 $\chi^2$  検定を行った(Table 7)。「華やかさ」( $\chi^2(1)=19.64, p<.001$ ), 「女性ばかりという特殊性」( $\chi^2(1)=4.95, p<.05$ ), 「ファン」( $\chi^2(1)=4.95, p<.05$ ), 「愛」( $\chi^2(1)=9.04, p<.05$ ), 「品のよさ」( $\chi^2(1)=21.70, p<.001$ ), 「一生懸命さ」( $\chi^2(1)=5.68, p<.05$ ), 「努力」( $\chi^2(1)=4.95, p<.05$ )に有意な偏りが示された。

日本人ファンは海外ファンに比べて、タカラヅ

カになくなくてはならないところとして、華やかさ、女性ばかりという特殊性、ファン、愛、品のよさ、一生懸命さ、努力を多くあげていた。日本人ファンは海外ファンよりも、品のよさ、一生懸命さ、努力をタカラヅカになくなくてはならないところとして挙げていることと、礼儀正しさ、タカラヅカジェンヌの生き方をタカラヅカの好きなどころとして挙げている人が多かったことを併せると、日本人ファンはタカラヅカの精神性を高く評価をしているといえる。上瀬(1994)においても、同質問にて、一生懸命さや品のよさを挙げる人が多いことから、タカラヅカファンは舞台と観客とが共有する精神性を高く評価していると示唆されている。本研究の結果は上瀬(1994)と一致した。海外ファンは日本人ファンよりも有意に多い回答はなかったが、単純集計の結果から、敢えてその特徴を述べるとすれば、「男役」「演出(黒燕尾, 大階段, デュエットダンスなど)」をあげている人が多く、男役と演出というタカラヅカの独特の世界感を重要と考えているといえる。ただし、その回答の割合について、日本人ファンと海外ファンであるかによる有意な偏りはない。

## まとめと本研究の課題

日本人ファンについては上瀬(1994)とほぼ同様の結果が得られており、上瀬(1994)から約25年経過していても日本人ファンがタカラヅ

かに抱いているイメージや求めているものは変化していなかった。一方、海外ファンは日本人ファンと同様に舞台の華やかさ、美しさ、男役のかっこよさに魅力を抱いているという共通点もあったが、タカラヅカ独特の世界感および文化を好んでおり、また、男役を理想の男性像と重ねているという相違点が示された。

最後に、課題点を3点述べる。第1に、回答者の人数が少なかったことがあげられる。国内外の、より多くのタカラヅカファンに調査を実施して、本研究で得られた結果が再確認されるかどうか検討するべきであろう。第2に、本研究の海外ファンの回答者はアジア圏が多く占めていた。これまで文化交流の一環で実施されていたとはいえ、宝塚歌劇はアジア圏以外の国々でも公演されている。今後はアジア圏以外の国のファンに調査を実施するべきであろう。第3に、本研究では、回答者にファンクラブに入会しているか否かを尋ねた際に、公式ファンクラブである宝塚友の会であるか、私設ファンクラブであるのかについては区別をしていなかった。また、ファンクラブに入会していなくても、誰のファンであるかについても尋ねていなかった。そのため、特定の層の回答が集中した可能性があることは否めない。特に、本調査に回答した海外ファンは、調査に回答できるレベルの日本語能力を有する人々であったことを考えると、ある種の偏りを示す層であるといえる。今後は特定の層に偏りがなく、幅広い対象に調査を実施するべきであろう。

## 引用文献

遠藤悠樹（編）（2016）．宝塚を劇的に楽しめる100+  $\alpha$  の

- お得な知識 株式会社三オブックス  
 藤沢志穂子（2013）．宝塚 アジア本格進出 国内は頭打ち 新ファン開拓へ 産経新聞東京朝刊 2月18日  
 上瀬 由美子（1994）．タカラヅカファン 松井 豊（編）ファンとブームの社会心理学 サイエンス社 pp.53-70.  
 毎日新聞大阪朝刊（2013）．特集：宝塚歌劇団台湾公演 夢幻、躍星、心盗 5月6日  
 都あきこ（2014）．ファンも知らない!? タカラジェンヌのすべて 三栄書房  
 産経新聞東京朝刊（2016）．宝塚歌劇 過去最高の観客動員 新作でファン層開拓 小川友次理事長「102周年が正念場」 1月16日  
 産経新聞東京朝刊（2017）．宝塚歌劇団103年 小川理事長、観客動員数の増加に手応え 2月5日  
 笹井継夫・谷辺見子（2013）．宝塚歌劇団、いざアジア 台湾・韓国・シンガポール…進出本格化 朝日新聞 7月9日  
 宝塚歌劇の公式ホームページ（2018） <<https://kageki.hankyu.co.jp/>>（2018年11月28日）

## 《注》

- （1）本論文は、邵毅邵毅氏が筆者の指導の下、平成29年度江戸川大学社会学部人間心理学科の卒業論文として提出したものを著者が再分析および修正加筆したものである。データの提供について、ここで謝意を表す。
- （2）代表は基本的には無償のボランティアであるが、代表経験者をプロとして雇うこともある（遠藤、2016）。
- （3）回答者に様々な国籍の人が含まれる場合や、外国語で調査を実施した場合は、これらの情報について一般的には説明される。しかし、上瀬（1994）では、回答者の国籍について特に記載されておらず、調査実施方法についても外国語での実施等の記述はされていない。加えて、1989年から1991年にかけて「ベルサイユのバラ」が各組で再演され、大ヒットした時代である1991年に実施した調査である。海外に新規顧客開拓を行う以前に実施された調査であることから、主に日本人ファンを対象にした研究であることが推測できる。しかし、回答者には海外ファンも含まれている可能性はゼロとはいえない。
- （4）邵毅邵毅氏のネットワークで調査は実施された。
- （5）上瀬（1994）では「はじめてタカラヅカを観た時期」という質問であり、具体的な年齢を尋ねているわけではない。しかし、本研究では、海外ファンを対象にしていることから、タカラヅカを初めて鑑賞した年齢を尋ねた。

# The psychology of Takarazuka fans:

—A comparison between Japanese and overseas fans—<sup>(1)</sup>

Ritsuko Azami \*

---

## Abstract

This study aimed primarily at comparing the psychology of Japanese and overseas fans of the Takarazuka Revue Company (commonly called 'Takarazuka'). Secondly, it aimed at comparing the findings of Kamise (1994) on the psychology of Japanese Takarazuka fans, conducted about twenty-five years ago, and present attitudes as reflected by the results of this study. Pertaining to Japanese Takarazuka fans, we obtained essentially similar findings to those of Kamise (1994), indicating that the images and expectations that Japanese fans hold of Takarazuka have remained unchanged over time. On the other hand, although overseas fans were similar to Japanese fans in some respects, particularly in that they were attracted to the glamour of the stage, the beauty of the performances, and the dashing elegance of the actresses playing the male roles, there were also differences. That is, overseas fans supported the worldviews and culture unique to Takarazuka, and saw their ideal male image in the actresses playing the male roles.

**Keywords** : fan psychology, Takarazuka Revue Company, Takazuka fan, cross-cultural study

---

